

〔科目名〕 学習導入演習	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベシックス
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihito	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の初回に提示する 場所: 613 研究室	〔授業の方法〕 演習
〔科目の概要〕 <p> 学びにおける「問い」という技能の役割を吟味することにより、大学に入学したときから必要不可欠なものとなる、アカデミック・スキルの習得を目指す。自分で「問い」を見つけ出し、探求をすすめることは楽しい。自分の経験と関心に応じて「問い」を定め、情報や資料を吟味し、考察を深め、議論を交わし、「答え」を求める。そんなふうな、大学生活を楽しむための、学びの技(スキル)を身につけることが本演習のねらいである。 </p> <p> 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことは、おそらく相互に補い合い、増幅し合うことで、われわれが事象を理解したり、考えたりすることに役立っている。ノートテイキングやメモを活用すること、質問すること、資料を読んで要約すること、音読すること、自分の気づきを文字にすること、といった学びの技を実践的に習得する。 </p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p> この授業では、具体的に学びのスタイルを捉えなおし、メモやノートの方法、図書館の活用、ネットワークの活用、文献や資料の収集と整理の仕方、探求的思考と議論の実践、レポート作成の作法、引用や要約の仕方、等々を習得することをおこなう。ことあらためて、勉強の仕方を問い返すことによって、これから始まる大学の授業や自分の学習は、ますます興味深いものとなるだろう。 </p> <p> どのような仕方で、どのように勉強するのかという方法やスキルは、その人その人が徐々に身につけ、改良を加えてゆくものである。とはいえ、学生生活の中心が「学ぶこと」であるかぎり、どのような学問領域、研究対象に向き合おうとするにせよ、基礎的な学習のスキルを身につけ、自分の学びのスタイルを再構築することは、この春あらたにスタートを切るにあたり必要不可欠なトレーニングである。 </p> <p> 「学ぶ」とはどういうことなのか。「なぜ」と考えるのはどういうことなのか。そうした高次の問いにも踏み込んで、ともに考えることを楽しみながら授業をすすめたい。 </p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p> 中間目標 </p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館、授業、文房具、電子機器、インターネット、等々の学習のためのツールを使いこなすこと (2) この授業、および大学の様々な授業のスタイルに慣れ親しむこと (3) 問うことの意味を理解し、探求的に考える習慣を身につけること <p> 最終目標 </p> <ol style="list-style-type: none"> (4) レポートや小論文を作成するための技法を身につけること 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p> 授業を進行するペースをもっと早くして欲しい、課題をもっと早めに伝えて欲しいという要望があった。また、授業のなかでの説明や解説について、余談が多いのではないかという指摘があった。説明や解説が分かりにくいという点については、簡潔に、明確に伝えることができるよう努力を重ねたい。その上で、話しの要点にとどまらず関連する諸々の話題をじっくりと聞くことは、理解を深める一助となり、事柄を多面的かつ重層的に考える手がかりにもなる。つまり、雑談や余談と思われる話題が、じつは重要な情報源になるということである。理解が早い遅い、作業が早い遅いという点については慎重に配慮し、取り組みやすいテーマの提示、さらなる考察の深まり、というように事象に対して様々なアプローチができるよう、課題設定についても工夫していく。 </p> <p> 春学期 15 回の授業スケジュールについては、シラバスの計画をじっさいに進めながら、受講者の理解と関心、具体的な作業の進行状況を見て無理がないように調整する。毎回の授業と日々の勉強の成果をもとに実力を発揮し、期末レポートを作成することができるように授業の組み立てを工夫していきたい。 </p>		

<p>〔教科書〕 使用しない。適宜プリントを配布する。</p>	
<p>〔指定図書〕 なし</p>	
<p>〔参考書〕 『大人のための国語ゼミ』野矢茂樹、山川出版社、2017年 『はじめての論理学』篠澤和久ほか、有斐閣、2020年 『学術書を読む』鈴木哲也、京都大学学術出版会、2020年 『対話の技法』納富信留、笠間書院、2020年 その他、授業内に紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業のなかでの活発な活動や発言(50%)、最終レポート(50%)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 A:80点以上 B:80点未満70点以上 C:70点未満60点以上 D:60点未満50点以上 F:50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 大学に入学するまでの勉強と入学してからの勉強は、すこし違います。そこで、自分の学習のスタイルについて、ちょっと立ちどまって考えてみましょう。学びの方法やスタイルにも、発見や気づきがあるかもしれません。 あたらしい知識をたくさん見聞きし、習い覚えることは、もちろん面白いし達成感があります。それだけではありません。これからは、まだ「答え」が見つかっていないことを考える、調べる、探究することになるのです。 「答え」が無いと聞いて驚かないで下さい。なにしろ、自分が「問う」ことをしなければ、発見されるべき「答え」もありません。問題発見能力と問題解決能力は、表裏一体なのです。それでは、あなたは何を問いますか？</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:この授業の趣旨と内容、具体的な作業の予定、評価の方法、質問する、メモ、ノートテイキング 教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):大学と図書館 内 容:ネット検索と文献資料の価値、図書館を活用するための基礎、自己紹介カードをつくる 教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート作成の方法 内 容:作文すること、問いの提起、引用と参照、書式 教科書・指定図書</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):探求のテーマと参考文献 内 容:主題を設定する方法、本を探ること、調べること、文献資料のリスト</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約(1) 内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):引用と要約(2) 内 容:レポート作成のための引用と要約の練習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):主題設定と構想(1) 内 容:趣旨説明、問いをつくる、資料の探索、構想ノート</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):主題設定と構想(2) 内 容:問いをつくる、資料の探索、構想ノート</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(1) 内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(2) 内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):構想発表(3) 内 容:主題、構想、参考文献、質疑応答</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):レポート課題への対策 内 容:事実と経験、問いと答え、先行研究と資料探索、再考すること</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):対話・質疑応答(1) 内 容:趣旨説明、問いの形式、質疑応答、困難を克服する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):対話・質疑応答(2) 内 容:問いの形式、質疑応答、困難を克服する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括 内 容:授業の趣旨と要点をふり返る</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	